

日本災害看護学会令和6年能登半島地震災害看護プロジェクト活動報告書

報告年月日：2024年9月9日（月）

実働部隊：紫 宇代

1. 活動期間

2024年9月3日（火）8：30～2024年9月5日（木）17：00

2. 活動場所

仮設住宅：正院町第1団地集会場：石川県珠洲市正院町1-39
：宝立町第1団地集会場：石川県珠洲市宝立鶴飼丑部83
：蛸島方面・正院第4団地内（訪問1件・不在）
：三崎町方面在宅訪問1件
：大谷小中学校避難所訪問（3日～5日）

3. 石川県被害状況

- ・負傷者 死者 341名（うち、災害関連死112名）
- ・負傷者 1,334名（令和6年8月21日16:00 消防庁）
- ・住宅被害全壊 6,273戸 半壊 20,892戸 床上・床下浸水 25戸 一部損壊 99,488戸
- ・避難者数 最大 51,605名（1道9県1府） 現在 869名（石川県）
- ・断水 最大 約137,000戸（石川県、富山県、新潟県、福井県、長野県、岐阜県） 現在 早期復旧が困難な地区を除いて、断水解消（令和6年7月30日・国土交通省）
- ・石川県住宅被害 58855棟（珠洲市全開 3464棟・半壊 2090棟・一部損壊 2762棟（令和6年8月9日：午後14時 石川県県庁及びNHKの報告による）

4. 訪問した仮設：蛸島方面・正院第4団地内（ささえ愛センター職員1名と同伴）

5. 活動の実際

n 9月3日（火曜日）

8：00 旧正院保育所施設解放

8：15 珠洲市増進センター・三山さんに挨拶

8：30 ささえ愛センターMTG参加

9：00 在宅・仮設訪問（ささえ愛センタースタッフ1名・同行）

蛸島方面・正院第4団地内に訪問できていない住民がおられるとのこと。ささえ愛スタッフ1名と訪問するが不在であった。自宅の片づけをしている可能性もあり、自宅へも訪問するが不在であった。

三崎町方面で在宅避難されている80代の女性を訪問。数日前に珠洲市総合病院を退院されたとの情報により生活状況や健康面を確認するために巡回した。自宅周辺には竹藪が広がり、涼しい箇所があり、畑も多数見られ、地域住民によって野菜が栽培されていた。訪問した家屋の損傷はほとんどなく、ライフラインも整い、夫・次男の3人で生活されていた。入院（病名）の理由は不明であるが、退院後の内服の継続は無い。コミュニケーション良好で冗談を交えながらの会話が弾んだ。買い物などは次男が行い、その食材と畑でとれる野菜で調理されるとのこと。「また、来てね。楽しくおしゃべりできて良かった」との声が聞かれた。

10：50 ささえ愛センターに戻る。

10：55 宝立・正院仮設集会場へチラシを届ける。

12:00~13:00 休憩・昼食

13:00~15:00 旧正院保育所（正院第2団地）イベント（住民参加7名）

前半は、ささえ愛センターの職員3名にて「新聞でゴミ箱づくり」を行う。

作成経験のある住民同士が他の参加者に伝授されていた。途中、不明な点があれば自ら携帯で確認されていた。後半は、学会が担当した。できるだけ洗い物やゴミを出さないように少ない材料を用いて「カップそのままヨーグルトチーズケーキ」を作る。調理するにあたっては衛生面などに留意し、手洗い・消毒に心がけた。調理後、自宅に戻って冷蔵し、2時間後に食して頂くプランとした。その後、お茶会となり、お互いの困りごとについて各自でお話しされていた。家屋の取り壊しの後の土地について方向性が決まらない点を話される。また、コメ農家の方は、納屋にある乾燥機が大きすぎて解体の邪魔になり、どこに移動するか困っているなどの声も上がっていた。加えて、自営の店の再開を望むが新たな建物の再建はせず、コンテナハウスを並べコストを下げ、その分を自宅の再建に充てるなど今後の計画などを話されていた。また、自宅の修繕に関しては、地元の工務店の修理を待っていてもいつになるか不明である。被害の大きい箇所からの修繕となり、順番待ちであると話される。また、県外の大手メーカーさんに依頼した方は1か月で自宅の再建ができた話を聞いたと話されている。さらに、これからのことを考えて若者が集まり始めて、元気が出るイベントを話し合っていると40代の女性が話されていた。15時15分ごろ、片付けを行い終了とした。

15:20 大谷小中学校へ巡回・本部長不在・消防士2名・住民さん4名とお話しをする。

DVT 疑いがあったKさんにもお会いでき、下肢の浮腫も軽減されていた。校庭の仮設住宅も着々と進んでいる様子。

17:00 旧正院保育所施錠・ミッション終了。

n 9月4日（水曜日）

8:00 旧正院保育所施錠解放

8:25 ささえ愛センターMTG参加

9:00 エリア会議参加 正院・蛸島 宝立・上戸・直・飯田 若山・三崎・大谷・日置のエリア担当者が課題別分類表に準じて現在の問題・課題について報告し、協議する。各エリアで上がった課題として女性中心のお茶会はみられるが男性のお茶会の希望が上がっている。内容としては将棋やしめ縄作りなどがよいのではないかの意見があった。また、以前、正院に住んでいたが、仮設住宅が蛸島方面になり、正院のお茶会に入りにくくなった。更に在宅避難されている人がお茶会に参加しにくいとの声が上がっていた。加えて、仮設住宅に移住したが家電の使い方が解らないとの声がよく聞かれる。YNFさんの協力を得て説明などを実施していく。9月末で1・5次避難から戻られる方々の要フォロー者を支援していく方向について話し合われていた。

11:45 増進センターにて担当者へ10月以降のイベントについて確認

12:10 宝立町第1集会所へイベント準備に向かう（車内にて休憩・軽食）

12:35 イベント準備

13:00 前半：高齢者公式輪投げゲーム、後半：「カップそのままクリームチーズケーキ」参加者12名

前半：公式輪投げは集中力や体感のバランスを維持する効力がある。2名1組になって合計得点を競う。各自、名前や年齢、今後の夢などを宣言しゲームを開始する。計算は順番を待っている住民の方に実施して頂く。優勝にこだわらず参加者全員で笑いながらじゃんけんゲームを行い、景品分配を行う（安眠グッ

ズ)。後半：できるだけ洗い物やゴミを出さないように少ない材料を用いて「カップそのままヨーグルトチーズケーキ」を作る。調理するにあたっては衛生面などに留意し、手洗い・消毒に心がけた。調理後、自宅に戻って冷蔵し、2時間後に食して頂くプランとした。その後、お茶会を行う。参加者されていた60代の女性が震災の時に家屋の下敷きになり、腕に釘が刺さったまま6時間耐えていた話をされる。近所にいた女性も「あの時は、ご主人さん必死で誰かを探しにいったって叫んで。区長さんが来てくれたし、あなた、よく声出して助けてって言ったよね。うちやったら声でなかったかも・・・」や、「その時に津波来なくてよかったよね」「釘、どこに刺さったの？」など当時の状況を話されていた。住民の方の言葉として「今後は、毎日健康でいたいし、仮設住宅の生活はストレスたまるから、また、このように集会所で発散できることいっぱいしたいです」との声が聞かれた。

15:30 終了・片づけ ささえ愛センターへ戻りヘッド会議見学する。

本題については終了されていたが、自宅再建に向けての話題が上がっており、資材の高騰・地代単価の高騰・依頼工務店の順番待ち、再申請などについて話し合っておられた。

16:00 大谷小中学校巡回・住民さんは著変なく過ごされている。夕食は毎日弁当になったと伺った。

17:00 旧正院保育所施錠・ミッション終了

○ 9月5日(木曜日)

7:00 旧正院保育所内・ひよこ・事務室・屋外トイレの清掃を実施する。

屋外トイレの排水の不良が生じ、プロジェクトリーダーに状況を報告し、市担当課に対応いただいた(原因は発動機の故障であった)。

8:00 旧正院保育所施錠解放

8:15 増進センター経由にてミッション終了(本日・夕刻)の挨拶を行う。

8:30 ささえ愛センターMTG参加する。

9:20 正院第1集会場にてチラシ印刷・掲示を行う。

10:00 淑徳大学(地域共生センター)学生6名・教員3名のサポート

10:15 正院公民館・小町館長による「令和6年能登半島地震の実際」についてのスライド・ビデオ鑑賞・公民館内の被害状況の説明を実施する。

11:30 淑徳大学学生・職員：正院第1集会所で休憩・昼食

12:30 イベントの準備

13:00 淑徳大学学生イベント「ボール回し・ポッチャゲーム」住民参加者10名

前半は、学生と住民が椅子に交互に座り円を作る。歌や曲に合わせてボールを回し、止まった瞬間、ボール所持しているとアウトという内容を実施した。簡単な動作ではあるが曲に合わせて歌いながら楽しんでいる様子が伺えた。後半は、「ポッチャ」ゲームを実施する。椅子に座って色別されたボールを投げる競技で、優勝者には折り紙で作ったメダルが進呈されていた。その後、お茶会を行う。参加者にとって学生の年代は孫世代であり、写真撮影をしながら会話を楽しんでいた。

15:00 片づけ・集会場内清掃・ゴミ捨て

15:30 淑徳大学生・教員を見送り

15:40 大谷小中学校へ巡回

本日、本部長のKさん宅へ訪問した(大谷小中学校正面に自宅兼職場あり)。急性期当時の話をしながら9か月の月日の経過を話される。今後、仮設内集会所で行われるイベントを楽しみにされていた。

【支援活動についての所感】

9月に入り日中は気温が高いが、朝夕は涼しく秋めいてきたと感じる。倒壊した家屋に撤去作業も徐々に進みつつあるが未だ手つかずの場所も多い。支援中、道の駅すずなりにて「すずなりキッチン」のプレオープンがあり、解体関係者や住民の列で賑わいがみられていた。食事ができ、お弁当の販売などがあることで今後の生業の復興への一歩に繋がっていくことを期待したい。エリア会議の課題を踏まえるとイベントの参加者の固定化があり、男性陣が参加しやすい内容や、季節に応じて祭りや、運動会のような町内全体が参加できる内容などを検討していく必要があると考える。しかし、イベントを楽しみにされている住民さんも多く、仮設住宅の増築に伴って情報共有も必要になり、広範囲への提供も求められる。住民さんの声として、「仮設住宅での生活はストレスが溜まる」から、それを発散したいという要望もあり、支援側主体ではなく、住民主体で内容を考案していくことも必要ではないかと考える。各、集会所に置かれているチラシを確認すると秋にバスツアーなどが開催されていることから、県外への活動の場も広がり、住民にとっての楽しみが徐々に増えていることが理解できる。今後、支援の在り方として、仮設住宅・在宅避難者とともに健康管理に留意し、訪問やイベントを通じて新たなコミュニティ構築にむけて寄り添いたいと考える。

以上。

【写真：現地の状況および活動の様子】

正院地区解体工事



大谷小中学校仮設



淑徳大学（正院イベント）



旧正院保育所（正院第2集会所）

